



# NEWSLETTER

歯科保健医療国際協力協議会

事務局：〒390 長野県松本市横田3-10-14 TEL&FAX：0263-39-1583

発行：深井稜博 編集：平居夕紀子 現会員数：245名

Japan Association of International Cooperation for Oral Health

## 新年挨拶 新しい世紀を迎えて

会長 深井稜博

新年明けましておめでとうござい  
ます。二十一世紀は、人々の幸せを  
追求する時代、或いは人権と人間科  
学の時代と考えられています。その  
ための方策の一つとして、一人一人  
がその持てる力で社会に参画するこ  
とが挙げられます。

自らの力を社会のために還元する  
ことは、専門家にとってこの上ない  
喜びであり、同時に責任でもありま  
す。国際保健医療協力の現場は、異  
文化のなかで、このことを実感でき  
る場であり、これを実践できる場  
あり、さらには自らの力を自覚する  
ことができる機会でもあります。

現在、わが国では口腔保健の分野  
で多くの団体や個人が国際協力の実  
績をあげており、しかもこれから活  
動の場を海外に求めている多くの  
人々がいます。

本会の会長をお引き受けした際に、  
これからのJAICOHの果たすべ  
き役割として、(一)国際協力活動を  
行なっている団体や個人の連絡協議  
と交流、(二)各個人や団体の活動へ  
の支援、(三)海外への活動に興味を  
持ち、これから活動したいと考えて

いる人たちへの支援と情報提供、の  
三点を挙げさせていただきました。

この趣旨にそって、昨年十一月  
に開催した「JAICOHフォーラ  
ム二〇〇〇」これからの国際歯科保  
健医療協力」には全国から多くの  
方々に参加していただきました。参  
加者のほとんどは、NGOの立場で  
途上国での活動に興味をもったり実  
践している方々でした。

一言で国際協力といっても、その  
内容は、相手の状況や実践する力量  
によって、医療を中心にするもの、  
保健活動を主体とするもの、人材育  
成に力を注ぐもの、政策提言を行な  
うものなど、さまざまな展開の方法  
があります。いずれも主役は途上国  
の現地の人々にあります。

フォーラム参加者のなかですでに  
経験を持った方々は、資金の問題、  
メンバーの募集、活動のコンセプト  
づくりなどの苦労のなか、それぞれ  
工夫しながら独自の展開、実践をし  
ていました。

今後は、各人の持てる経験を共有  
し、共に「何が本当か」を考える場  
を本会が提供できるように、さらに  
努力したいと考えていますので、会  
員の皆様のご協力をお願い申し上げ  
ます。

JAICOH NEWS LETTERは、下記の各社のご協力を得て作成されております

**11か国語対訳  
歯科診療会話集**  
吉田けい子

1ページ1会話文とし、約370の会話表現に「英語」「インドネシア語」「中国語」「ポルトガル語」「タイ語」「韓国語」「アラビア語」「スペイン語」「ベンガル語」「ミャンマー語」「シンハラ語」の訳をつけました。

●AS判414P ●定価：本体3,000円＋税 ●送料340円

財団法人 口腔保健協会  
TEL：03-3947-8301 FAX：03-3947-8073

「毎日、毎日……」  
「繰り返し、  
繰り返し」

使いたくなる  
ホームケア歯ブラシ

〈ホームケア〉歯ブラシ 0120-118418  
株式会社 永山 FAX 0120-648581

「GC」  
はじめての  
コンポジット直接充填!  
はじめての1液性セルフ  
エッチングプライマー!

ユニファルF ■長期的なフッ素の徐放。  
■ピタシェード9色+A03:CV。

ユニファルポンド  
■湿和不要、簡便2ステップ。  
■接粘性モノマー「4-MET」による優れた接粘性。

株式会社 ジーシー  
DICフリーダイヤル 0120-416480

## 新加入団体の活動

### 南太平洋医療隊

「南太平洋医療隊」は九八年に発足しました。

トンガ王国での医療ボランティアは昨年で三回目を迎え、活動の内容や規模もより充実したものになってきました。

今年の参加者は歯科医師十四名、衛生士四名でした。お国の歯科事情を把握し、当方の活動主旨に理解と協力を願うため、活動の拠点を首都・ヌクアルファの王立病院（健康省に隣接している）に置かせていただいています。年を重ねるごとに政府の高官や職員の方々と親交が深まり、より温かくむかえていただいています。病院の歯科外来をはじめ、周辺の学校訪問、検診、フッソ塗布に加え、離島でも同様の活動を経験することができました。

そして今回、最も大きな成果としては、社会の推進力となる若者の育成を、日本留学というかたちで実現できたことです。

私たちは、どのようなかたちの活動が、その国にとって有益なのか。それを限られた時間と技量の中でいかに具

現化するか、を受け手の視点に立って、現在も模索中です。

また、相互理解が得られてこそ、功を奏すというものであるので現地語を習得することも課題の一つといえます。

以前ヴァヌアツに医療を送る会に参加して痛感したことは人材の育成でした。そこでは、毎回多くの義歯を希望する島民で溢れ、需要に応ずるのは不可能だったからです。

トンガの病院において、卒業後、間もなく臨床医として、第一線で活躍せざるを得ない若い医師の悩みの一つは、難症例の患者さんの処置です。

そこで、さらなる研鑽を積む機会が無いものかと思案し、留学生の受け入れを推進することに決めました。そしてようやく昨春秋、その第一号を日大松戸歯学部を迎えることが出来ました。

トンガの歯科医・シシリア先生は、国費でニュージーランドの歯科大を出られた方です。将来、このことが実を結び、トンガの医療に貢献できることを切望して止みません。

留学生を快く受け入れてくださった、日大松戸歯学部山本教授、並びにホストファミリーとして彼女を支援され、多大なご尽力を頂いた川口市の河村康二先生ご夫妻に敬意を表します。

〔南太平洋医療隊・時田信久〕

## 第49回日本口腔衛生学会報告

柴田享子

二〇〇〇年一〇月四・五日の二日間にわたり、札幌市・北海道厚生年金会館において、第四十九回日本口腔衛生学会が開催されました。

例年プログラムにある「自由集会」に参加しているJAICOHは今回、歯科衛生士が主体となり「国際協力における歯科衛生士の可能性」と題した、吉田直美氏（98・99 JICA 専門家）、野口佳子氏（95・97 青年海外協力隊）の二例の事例報告をもとに会場参加者と議論しました。

NGO活動経験者からも事例や意見が活発に出るなか、専門職としての論理的思考能力、包括的視点からの問題発見と問題解決能力などがより向上することで、プライマリヘルスケアの一専門家となりうると思われされました。

また、今回のシンポジウムにおいても「新しい世紀を見据える二十一世紀の歯科衛生士」という壮大なテーマで五名のシンポジストが分野の現状報告をしました。

「国際協力分野」からは私が、先の自由集会の報告も合わせて話題提供と提言をさせていただきました。

ディスカッションでは、歯科衛生士教育と労働環境が中心に話し合われ、質の高い歯科衛生士の輩出は国民の健康維持増進に必要であることが再認識されました。

またその中で「歯科衛生士の元気は日本の歯科医療の元気である」との意見が印象的に感じられました。

二十一世紀の歯科医療の明暗は歯科衛生士にかかっている、ということころかもしれませんね。

## お知らせ

JAICOH news letterは会員の皆さんの伝言板です。大いに活用してください。みんなに伝えたいことがある時、情報を集めたい時、意見を聞きたい時など。下記アドレスまでメールをください。また、ニューズレターへのご意見・ご要望などもお寄せください。  
深井: fukaik@ka2.so-net.ne.jp  
平居: ahiuh@ruby.ocn.ne.jp

下記のご協力を得て作成されております

**スーパーポンドは、  
1982年に発売以来  
基本組成を全く  
変えておりません。**

矯正に、補綴物の装着に  
動揺歯の固定に  
支台築造に、垂直破折歯の保存に  
生活歯牙質切削面の保護に

信頼と実績の  
多目的歯科用接着材料

**スーパーポンド**

サンメディカル株式会社  
フリーダイヤル: 0120-418-303  
URL: <http://taihei.co.jp/sunmedical/>

# JAICOHフォーラム2000 に参加して

若い世代への期待と私の責任

阿部 智

歴史的な一日であった。十年前のJAICOH創立時の「歯科の国際保健を考える会」もおそらくこのような熱気と情熱でみなぎっていたのだろう。

深井先生の会長就任時の公約の一つ「協議会機能の充実」は、「JAICOHフォーラム2000」という形でひとつの具体像を打ちたてた感がある。

私は深井新会長にある種の期待をもってその方針が打ち出されるのを待ち受けていた訳であるが、その第一弾は、見事華々しい結果となって実現した。新たなJAICOHの誕生、まさにこの言葉がふさわしい一日であった。

それを裏付けたのは、新しい世代の参加が見られたことと学生参加者の多かつたことである。多くは関東周辺からであったが、歯科学生が集

結し、なかには北海道からの参加もあった。彼らの、この分野に寄せる熱い思いが伝わってきた。

私はかねてから歯科学生における国際保健への関心度を高めなければならぬと考えていた。

その実践として、学生によるスタディツアーを多くの協力者を得て、実現をした。また医療界全体の動きにおいても「世界」を視野に入れて」という厚生省からの発案が提出されるまでになってきた。

今後は歯科の分野でも、他の医療系の大学で試みられているような様々な動きが出てくることを期待している。

国際保健の次の時代を担うのは、まぎれもなく若い世代である。

彼らに大いなる期待を寄せると同時に、私たち経験者が、一日の長として、情報を、あるいはチャンスを提供していくことが、重大な責任として浮き彫りになってくるであろう。それこそが私たちの存在意義であると思う。

学生諸氏は「結果」として、我々の期待に届いて欲しい。その答えは我々に対するものでなく、この活動の意義、本来の主役となる人たちへのものでなければならぬ。

それには、主客がどこにあり、誰のための活動なのかを十分理解して行動することが必要だと思う。それは経験者である我々も同様。初心忘るべからずである。

新体制の今後の課題として「協議会」としてのJAICOHの役割を、既存の会員の方々に説明し、納得してもらうことである。

今後の活動には、組織としてのJAICOHの存在意義が問われるだろう。それに対し答えを見いだすこと自体が、活動そのものでもあるといえる。

既存の会員の方々の多くはフィールド活動という最も分かりやすいNIGOとしての基本活動を支持してくださったものと私は分析しているが、その意味からも、今回の「JAICOHフォーラム」は、共通意識・共通概念の構築、すなわち組織の強化という一面を併せ持ったものと考えている。

今後も様々な形で組織を、より盤石なものへと、そして活動的なものへと、執行部は責任を全うしていかねければならないと役員の一人として、気持ちを新たにしたい。

顕著であった学生の熱意・期待に対し、JAICOH自身も対応できる

JAICOH NEWS LETTERは、下記の各社のご協力を得て作成されております

**NSK** ナカニシの  
ハンドピースは、  
世界中の先生方に  
愛用されています。

**NSK** 株式会社 ナカニシ  
〒322-8666 栃木県鹿沼市上日向340

世界の  
歯科医療に貢献する

SHOFU

歯は幸せへの扉

きれいにそろった歯は、まさに健康へのゲートであり、幸福のシンボルです。いくつになっても、さわやかな笑顔で人生を楽しく過ごしていただきたい。歯科医療に関わるものとして、

株式会社 松風  
〒165-0632 東京都品川区東品川1-10-1

時代のニーズに応えるビデオ!

**口腔介護の実践(全3巻)**

I. 訪問歯科診療  
口から食べるための支援  
口腔介護とリハビリテーション  
(歯科医師向け/26分)

II. 歯科衛生士の訪問口腔ケア  
要介護者のQOLの向上を目指して  
(歯科衛生士向け/27分)

III. 介護者の口腔ケアのポイント  
美味しく楽しく食べられるために  
(介護者向け/25分)

1日1巻ずつの視聴とそのポイントを3巻構成でわかりやすく解説。  
★各巻定価15,750円(税込) ★3巻セット定価42,000円(税込)

Dental Type Monod Co.  
〒322-0222 栃木県鹿沼市大宮町 6-7-1 TEL. 0284-5111 FAX. 0284-3814

体力を培わなければならない。

現在までの活動で、国際保健を担う素晴らしい人材を輩出してきた実績がある。しかしそれは各個人の突出した能力に負うところが多くあったことも否めない。

今後はさらに組織として、人材育成が重要であると痛感した。

併せて、JAI COH発展の、そして国際協力の本来の姿に向かう息吹が感じられたことが、このフォーラムでの、何よりの収穫であったと思う。

### フォーラムに参加して 相田潤（北海道大学歯学部四年）

フォーラムでは多くの方々にお世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。

講演、その後の飲み会を通じ触れ合うことが出来た方々の、行動力や強烈な個性には圧倒されました。

皆さんの日頃の仕事や学業を行いながら、海外での活動をも成し遂げてしまうというバイタリティー、そして一口に「国際歯科保健」と言っても様々な地域、方法での活動があり、多くの方々がお携わっているのだ、

という事実には、驚くばかりでした。

私は今まで「国際歯科保健活動」とは難しい一大事だと思っていました。それが、それは考え方次第であって、取り組み方も色々あり、いずれにせよとりあえず行動してみなくては始まらない、ということを感じました。

現在、有志で北大歯学部国際歯科保健のサークルを作る準備をしています。どのような形になるかまだ分かりませんが、今回得たことを生かし、自分も楽しみながら活動していこうと思います。

これからも勉強させていただくとばかりだとは思いますが、宜しくお願いいたします。



各地からの参加者を得て、21世紀の国際歯科協力への大きな一歩を踏み出したフォーラムの様子

### DHネットワークから 大和いずみ

先日東京にてJAI COHのフォーラムがあり、神戸から参加させていただきました。主に歯学部の学生が参加されていましたが、皆さんの熱い気持ちはこちらにまで伝わってきて自分が働き出した頃の新鮮な気持ちを思い出しました。

最近海外での活動に参加する度に「参加最低必要条件とは」と考えることがありますが、語学力をあげる人が多いと思いますが、私が本当に大切だと思う事、それは「日本人としてどれだけ自分の国の事を知っているか」という事です。

かなり矛盾しているかも知れませんが、海外で働く以上、現地の人は私達の事を「日本人代表」として見えています。

現地の事情や情報で解らない事はその現地の人たちに「教えていただけますか?」という姿勢で、共に学ぶ事ができます。でも自分の国の事をきかれた時、「わからない」と答える事ができるでしょうか?

自分の国の文化、政治、経済、教育、倫理などを理解してない者が相手国を理解できるとはいいいがたいと

思います。

そしてもうひとつ、「毎日の日常生活の中で感動できる事を発見する能力があるか」という事です。

日本はいろいろな面で恵まれていて明日食べる物を心配する事も明日着る服を心配する必要もない国です。そんな毎日の中でも不満、不平をいうような人が言葉の通じない、また物資がない状況で「使える」はずがないと実感しています。これは技術を持っている・いないの以前の話だと思えます。

そう考えると、歯科医療従事者として研究、勉強に励むことはもちろんですが、海外で活動するための訓練は、半径三メートル以内でもできるのだと、国際協力が、世界の人々が、身近に思えてきました。



まずは「自らを知る」ことから、国際協力の第一歩が踏み出せる。彼らに何を伝えることができ、何を教わるのことができるだろうか?